

第2期

音威子府村 まち・ひと・しごと 創生総合戦略



音威子府村公式キャラクター おとつきー

森と水と人が織りなす匠の里・おといねっぷ

目 次

I. 総合戦略について	1
策定の趣旨	1
対象期間	1
音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ	2
評価・検証の仕組み	3
II. 音威子府村の総合戦略の基本的な視点	4
音威子府村の強みと人口問題への対応	4
III. 音威子府村の総合戦略	7
音威子府村の総合戦略の全体像	7
1. 村の振興の要となる高等学校の機能強化	8
① 高等学校の仕組みの強化	8
2. 卒業生の雇用の場創出や多様な人材活躍の推進	10
① 地元企業等への就業者雇用の促進および起業支援、商工業担い手確保	10
② 新規就農者・農業後継者の育成強化	11
3. 高等学校を軸とした人の流れの促進	12
① 卒業生や若者のUターン・Iターン、定住の促進	12
② 高等学校を活用した交流拡大と関係人口の創出	13
③ 学校間連携の強化	14
4. 高校生参加による個性的で魅力あるまちづくり	15
① 高校生や卒業生のまちづくりへの参加促進	15

I. 総合戦略について

◇策定の趣旨

国は将来にわたって「活力ある地域社会」の実現と、「東京圏への一極集中」の是正を共に目指すため、「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、従来の枠組を維持しつつ、必要な強化を行う方向で見直しを行いました。住民一人ひとりがそれぞれ暮らす地域の交流の中で、豊かさと生活の充実感を享受できるように「稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする」「地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる」「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」という4つの基本目標と、「多様な人材の活躍を推進する」「新しい時代の流れを力にする」という2つの横断的な目標を提示しています。

音威子府村においても、社会的な少子高齢化の影響や、札幌市や旭川市といった都市部への若者を中心とした人口の流出等により、1990年の1,584人から2015年には832人（25年間で752人の減少）にまで人口が減少しています。また、「音威子府村人口ビジョン」（以下、人口ビジョン）で示したように、本村のすう勢人口は、今後も減少傾向で推移し、2025年に650人程度、さらに2060年には235人程度にまで減少することが見込まれます。

少子高齢化を背景とする人口構造の変化や人口減少は、本村における経済活動やコミュニティ活動等の活力を衰退させ、ひいては本村における安定した生活・暮らしそのものの存立を脅かす事態となることが危惧されます。

このような状況認識のもと、国・道の総合戦略を勘案しながら、人口減少に伴う地域課題に対応するために、今後村が目指すべき方向性を示す「第2期 音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下、総合戦略）を策定します。

◇対象期間

総合戦略の対象期間は、国の総合戦略と同じく2020年度から2024年度までとします。

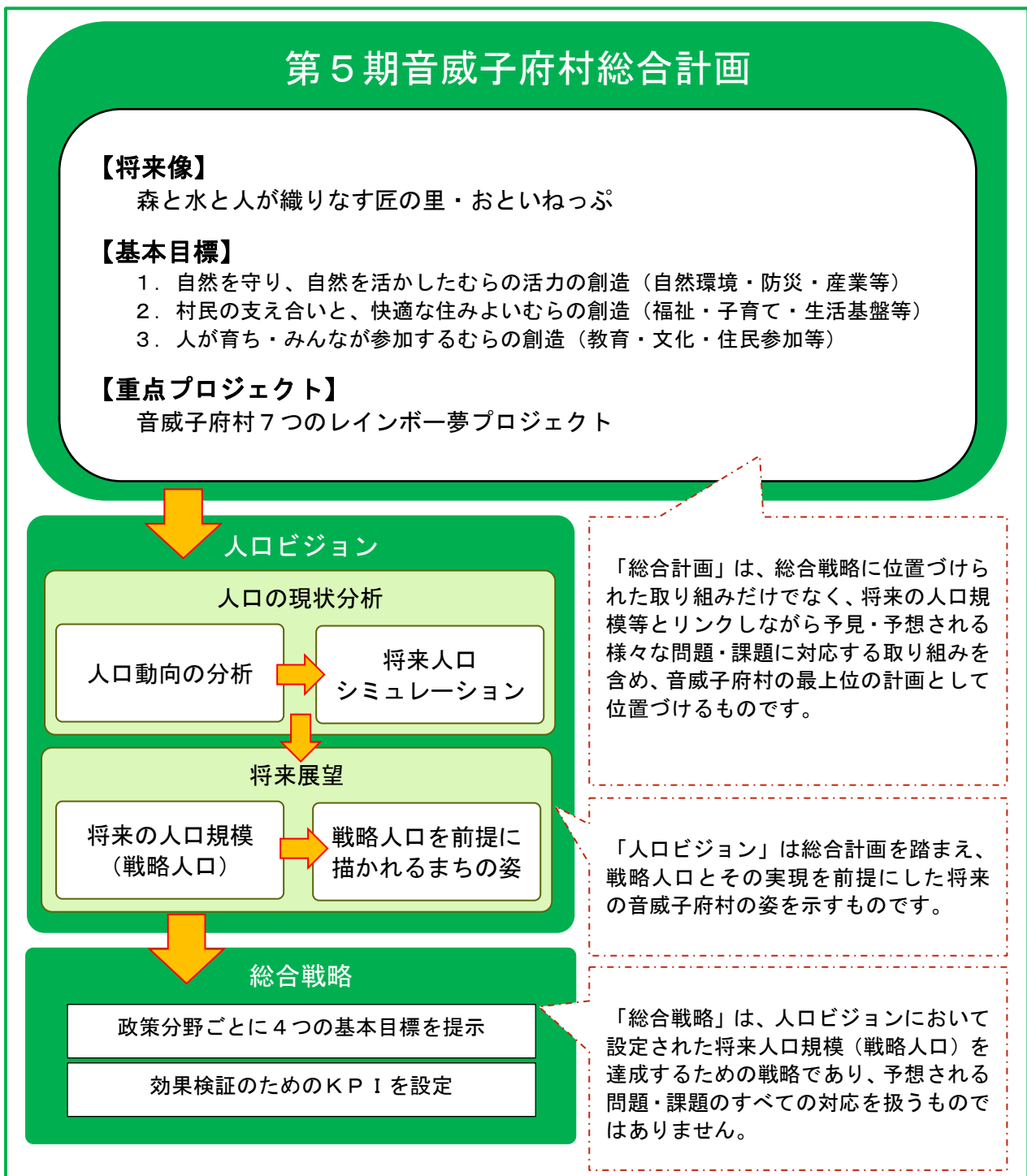
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
第2期音威子府村 まち・ひと・しごと 創生総合戦略	策定				

◇音威子府村まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置づけ

村の最上位の計画として 2013 年度に策定した「第 5 期音威子府村総合計画」（以下、総合計画）があり、本村ではこの計画に基づいて、総合的な村づくりの取り組みを進めています。

総合戦略は、こうした総合計画の取り組みを踏まえ、人口ビジョンで示す戦略人口を達成するために必要な 4 つの政策分野ごとの基本目標を示すものです。また、各政策分野を構成する施策・事業については、効果を客観的に検証するための重要業績評価指標（K P I）を設定しています。

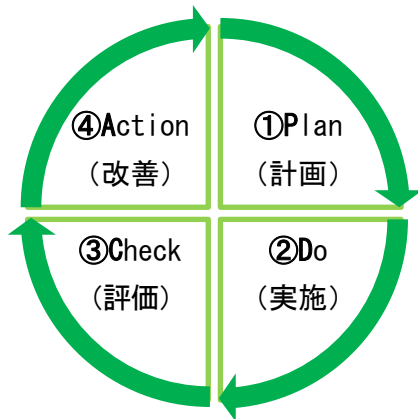
《「人口ビジョン」「総合戦略」と「総合計画」》



◇評価・検証の仕組み

総合戦略については、計画の推進をより実効性あるものとするために、評価・検証とともに、その結果を踏まえ、必要に応じた計画の見直しを行うものとします。

そのため、『PDCAサイクル』による評価・検証の仕組みを確立するとともに、評価・検証の客観性・妥当性を担保するため、外部有識者等の参画する評価・検証組織を設置します。



<総合戦略におけるPDCAサイクル>

- ① 総合戦略の策定
- ② 施策・事業の着実な実施
- ③ 実施した施策・事業の効果をKPI等により検証
- ④ 必要に応じた総合戦略の改定



Ⅱ. 音威子府村の総合戦略の基本的な視点

◇音威子府村の強みと人口問題への対応

[音威子府村の特性の検証]

○本村においては、美しく豊かな自然やそこで暮らす人々の優しさ、あたたかさが村の魅力の基盤となっており、独自の自然環境を活用したスキー・キャンプ場や天塩川温泉、また村の自然環境に魅了された砂澤ビッキのアトリエを活用したエコミュージアムおさしまセンター等の施設は、本村の重要な観光資源となっています。さらに、すでに音威子府ブランドとして認知されているそばをはじめ、豊かな自然の恵みから生み出される特産品は、おといねっぷファンの獲得にも寄与しています。



○しかしながら、こうした自然やその活用は村の特性であると同時に、規模や質に差はあるものの、我が国全体、とりわけ北海道においては広くみられる特性でもあり、特に喫緊の人口問題への対応という観点からは、自然やその活用のみを問題・課題解決の根拠・手段とすることは困難であるといえます。

[人口問題への対応の可能性の検証]

○人口減少（人口規模）や少子高齢化（人口構造）の問題に対応するためには、一般論としては出生数の増加へ向けた合計特殊出生率の上昇と、若者を中心とした転入の促進・転出の抑制への取り組みが重要となりますが、本村の人口規模や人口構造を勘案すると、合計特殊出生率が上昇したとしても、大きな人口の増加は望めないのが現状です。

○一方で、本村には村立の『おといねっぷ美術工芸高等学校』の存在があり、同校には毎年道内外から40人の生徒が入学し、卒業までの3年間を音威子府村の村民として過ごしています。すなわち、本村においては、同校の生徒として毎年15～18歳の若者120人程度が担保されていることとなります。これはすでに、現状の村の人口の約16%以上を占める規模であり、人口ビジョンで示した戦略人口が実現した場合の2060年においては、同校の生徒が約24%以上を占める状況となることが想定されます。



○このような人口構造は、他の自治体にはみられない村独自の特殊性であると同時に、同校の維持・発展および卒業生の定住・Uターン促進へ向けた取り組みを進めることは、人口減少・少子高齢化の問題・課題解決への大きな可能性を含んでいることから、同校の存在は人口問題に対応するための本村における最大の強みであるといえます。

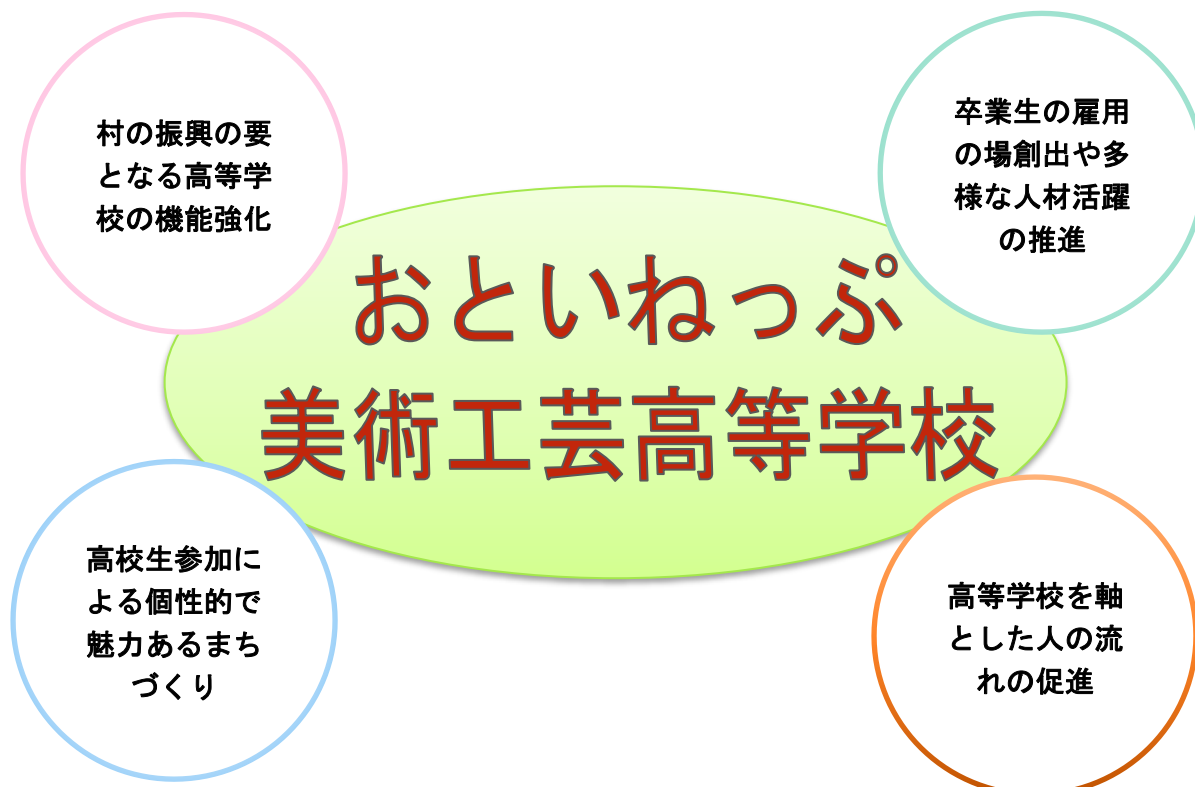


[最大の強みの活用による人口減少の抑制]

- おといねっふ美術工芸高等学校の生徒は、学校や村での生活をとおして、その9割以上が村への愛着を感じるようになり、半数程度は今後も村に住み続けたいと考えているものの、進学のためだけでなく、自分を活かせる就業の場の不足や生活上の不便さ等の理由から卒業と同時に転出する、という実態が2012年度に実施した高校生アンケートの結果から明らかになっており、このことは現在も変わらぬ実態であると判断します。
- すなわち、同校の卒業生の雇用の受け皿や3年間で培った技術や創造力を発揮できる活動の場をつくることに加え、住環境の整備・経済的な支援等を拡充することにより、卒業後の定住だけでなく、進学や就職等で転出した卒業生のUターンを促進し、音威子府村で働き、子どもを産み・育てるという好循環を生み出すことが可能であるといえます。

音威子府村の総合戦略のイメージ

- 音威子府村の総合戦略においては、音威子府村の最大の強みであり、他の自治体にはない独自性や村の未来を担う人材を創り出すポテンシャルという観点から、おといねっふ美術工芸高等学校を中心に置き、すべての基本目標と連動させることとします。
- さらに、国の総合戦略も勘案し、「村の振興の要となる高等学校の機能強化」「卒業生の雇用の場創出や多様な人材活躍の推進」「高等学校を軸とした人の流れの促進」「高校生参加による個性的で魅力あるまちづくり」を4つの基本目標として設定します。



- なお、現在村が重点的に推進している「地元企業等への就業者雇用の促進および起業支援、商工業担い手確保」「新規就農者・農業後継者の育成強化」については、総合戦略において、おといねっふ美術工芸高等学校卒業生の雇用の場として位置づけます。

《おといねっふ美術工芸高等学校2年生がみる音威子府村》

○おといねっふ美術工芸高等学校の2年生を対象に実施したアンケートから「音威子府村に残るきっかけになるような魅力的な仕事や資源、サービス」について抽出した結果、下記のような意見や感想が明らかとなりました。

制作、展示環境

- ・自由に作品を作れるような環境と材があれば良い
- ・おと高生の作品を展示できる美術館をつくる
- ・ものづくりをする仕事やたくさんの木があると良い
- ・制作環境がよい
- ・自由に使える工房などがあつたらよい
- ・木遊館、道の駅のホールなど芸術や工芸に積極的なところ

村について

- ・生活のしやすさ
- ・温泉が好き。インターンシップ先の幼児センターはいいところ
- ・人が優しい
- ・郵便局などの店舗の営業時間がのびると良い
- ・村の景観がもっとオシャレになると良い
- ・忙しくないのどかな村

産業

- ・卒業後は花屋に就職したいので、花屋があると村で就職するかもしれない
- ・もう一つ程度特産品を増やすと良い
- ・道北に位置する涼しい気候を活かしたキャンプや、アウトドア事業の開発や企業の誘致など（アウトドア系）、冬のスキー場など宿を増やしリゾート地にすると良い
- ・娯楽を増やす（森の遊園地、古着のセレクトショップ、カフェ）など
- ・林業
- ・駅そば

施設

- ・ふらっと立ち寄れる公民館の図書室
- ・インターンシップ先の幼児センターはいいところ

イベント

- ・工芸や美術の展覧会などがたくさんあると良い
- ・小中高の学校で、もっと音楽に触れる機会があつて良い。人口が少ないからこそ音楽で人と人のつながりを深めることは大事

Ⅲ. 音威子府村の総合戦略

【音威子府村の総合戦略の全体像】

基本目標（数値指標、2024年度）	具体的な施策	重要業績評価指標（KPI）
<p>1. 村の振興の要となる 高等学校の機能強化</p> <p>☆高等学校の入学者数 ⇒年 40 人</p>	<p>①高等学校の仕組みの強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校訪問実施校数 ・ 企業版ふるさと納税
<p>2. 卒業生の雇用の場創出や 多様な人材活躍の推進</p> <p>☆卒業生の新規就業者数 ⇒5年間で5人</p>	<p>①地元企業等への就業者雇用の促進および起業支援、商工業担い手確保</p> <p>②新規就農者・農業後継者の育成強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業への就業者数 ・ 起業・事業承継者数 ・ 新規就農者数 ・ 農業後継者数
<p>3. 高等学校を軸とした 人の流れの促進</p> <p>☆卒業生の移住者数 ⇒5年間で5人</p> <p>☆作品展の入場者数 ⇒年 2,000 人</p>	<p>①卒業生や若者のUターン・Iターン、定住の促進</p> <p>②高等学校を活用した交流拡大と関係人口の創出</p> <p>③学校間連携の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短期移住体験者数 ・ アーティストインレジデンス参加卒業生数 ・ 作品展の開催数 ・ 音威子府村応援団への加入数 ・ 交流イベント開催数 ・ 大学との連携事業数
<p>4. 高校生参加による個性的 で魅力あるまちづくり</p> <p>◇高校生参加まちづくり事業 ⇒年 3 事業</p>	<p>①高校生や卒業生のまちづくりへの参加促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村内公共施設での作品展展示会開催数

1. 村の振興の要となる高等学校の機能強化

☆高等学校の入学者数 40 人（2019 年度）→年 40 人（2024 年度）



[現状と課題]

おといねっふ美術工芸高等学校の存在は、村の喫緊の人口問題・課題に対応するための最大の強みであり、同校の維持・発展やそれに伴う生徒の確保は、村の振興の要であるといえます。そのためには、教育環境の充実等、高校の魅力向上につながる機能強化が重要となります。

[具体的な施策]

① 高等学校の仕組みの強化

道内において、入学志願者が多い地区の中学校を中心に訪問し、継続的な生徒確保を図るとともに、道内町村立高等学校を設置する自治体との連携を強化します。既成概念に捉われず、さまざまな視点から、高等学校の仕組みの強化の検討を行います。

また、全国からの入学者も約 2 割程度いることから、「地域みらい留学」事業などをはじめ、高校魅力化に取り組む全国の自治体との連携も図りながら、意志ある若者を継続して呼び込み、持続可能な地域社会を目指すものとします。

現状では、教育環境の充実や、寮生活における生活（食）環境や個別学習環境の整備など、村立高校の運営には年間約 4,600 万円程度の自主財源を充当しています。これらのさらなる充実や拡充のために、企業版ふるさと納税制度などさまざまな形での支援や連携を得ながら、高等学校の機能強化を目指します。

◎施策の目標

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (2019 年度)	目標値 (2024 年度)
中学校訪問実施校数	年 111 校	年 111 校
企業版ふるさと納税	—	5 年間で 500 万円

<主な事業>

- 村立おといねっふ美術工芸高等学校振興事業（生徒募集のための中学校訪問）
- 道内の町村立高等学校を設置する自治体と連携した学校紹介、入学案内事業
- 美術工芸教育の質と寄宿舎機能をもつ環境の充実事業
- 高校魅力化発信事業への参加、都市部における生徒募集（地域みらい留学フェスタ、彩の国進学フェスタ事業等）
- 生活（食）環境の整備（安心・安全な食事の提供）
- 高等学校、寄宿舎の ICT 化事業（Wi-Fi 環境整備等）
- 美術工芸実習に必要な専門工作機械類の環境整備

[期待される施策の主な効果]

- ◇教育環境等の機能強化による高等学校の魅力向上
- ◇生徒の安心・安全・快適な生活、学習環境の確保
- ◇高等学校の魅力をもとに、中学校訪問等による生徒の確保
- ◇生徒の確保による「おといねっふ美術工芸高等学校」の維持・発展
- ◇高等学校の魅力発信を通じた、音威子府村の魅力化、維持・発展

2. 卒業生の雇用の場創出や多様な人材活躍の推進

☆卒業生の新規就業者数7人（2015-2019年度）→ 5年間で5人（2024年度）



[現状と課題]

音威子府村では、地域おこし協力隊制度を導入して以降、高等学校卒業生のUターンが徐々に進みつつあります。このことから、村内においての雇用の場の創出をより一層行うことにより、卒業生の定住・Uターンへの直接的な効果が見込まれることから、官民とが連携をし雇用の場創出を早急に取り組むことが求められています。

[具体的な施策]

① 地元企業等への就業者雇用の促進および起業支援、商工業担い手確保

おといねっふ美術工芸高等学校の卒業生のための雇用の場として、地元企業での雇用促進を図ります。

村内に暮らす高校生はもとより、すべての村民が潤いある生活を送るためには、地元の商業機能は欠かすことができないことから、Uターン等の多様な人材による、起業や既存事業の承継を支援し、地域内経済循環を高めていきます。

◎施策の目標

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (2015-2019年度)	目標値 (2024年度)
地元企業への就業者数	3人	5年間で5人
起業・事業承継者数	0人	5年間で2人

<主な事業>

- ・半工半農制度（半年工芸等制作活動・1年の半年農業従事）事業
- ・音威子府村中小企業振興条例の活用

② 新規就農者・農業後継者の育成強化

村の基幹産業である農業の振興に向けて、新規就農者や農業後継者、新規就農者等の育成強化を行います。

営農実習を指導する指導員や受講者、農業後継者に対し、さまざまな助成制度を活用します。

◎施策の目標

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (2015-2019年度)	目標値 (2024年度)
新規就農者数	4人	5年間で3人
農業後継者数	3人	5年間で2人

<主な事業>

- ・新規就農者対策事業
- ・農業後継者対策事業
- ・音威子府村農業振興事業

[期待される施策の主な効果]

- ◇卒業生を中心とした若者の雇用の場の創出
- ◇卒業後の進路の選択肢の拡充による高等学校の魅力向上
- ◇農業、商工業の後継者確保
- ◇起業・就業に伴う、卒業生の定住・Uターン等の促進
- ◇地域における商業機能の安定化

3. 高等学校を軸とした人の流れの促進

☆卒業生の移住数 7 人（2015-2019 年度）→ 5 年間で 5 人（2024 年度）

☆作品展の入場者数 2,000 人（2019 年度）→年 2,000 人（2024 年度）



[現状と課題]

生活の不便さは、地域に定住する上で、重要な課題であるといえます。住環境整備や経済的な支援により、一般的な生活をする上での、不便さの解消が求められます。

あわせて、利便性の高い札幌や東京などの都市圏にはない、音威子府村らしい魅力を高め、村への人の流れを生み出すという観点から、地域資源の一つであるおといねっぐ美術工芸高等学校を活用した、地域内外との交流の拡大や同校のPR強化が重要となります。

[具体的な施策]

① 卒業生や若者のUターン・Iターン、定住の促進

新しい産業・既存産業の雇用の受け皿を活用した移住・定住促進に加え、現在も実施している短期移住体験住宅の効果的な活用を進めます。

さらには、アーティストインレジデンス事業をはじめとした、村内の創作活動の拠点となるような、若者が滞在できるシェアハウス等の確保等、おといねっぐ美術工芸高等学校の卒業生の多様なニーズに対応した移住・定住施策を展開し、卒業生のUターンおよび定住を促進します。

◎施策の目標

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (2015-2019 年度)	目標値 (2024 年度)
短期移住体験者数	年 10 人 (延 275 日)	年 12 人 (延 300 日)
アーティストインレジデンス参加卒業生数	年 10 人	5 年間で 50 人

<主な事業>

- ・卒業生等のUターンIターン促進事業
- ・短期移住希望者の受入事業
- ・大学、大学院などの研究室等との連携事業
- ・卒業生によるアーティストインレジデンス推進事業
- ・企業版ベシクインカム等への協力
- ・創作活動およびギャラリー拠点機能を持つシェアハウス等の整備促進
- ・卒業生等がデザインを手がけた村特産品の開発販売
- ・卒業生等がかかわる体験学習機会の創出

② 高等学校を活用した交流拡大と関係人口の創出

これまで実施してきた、旭川や札幌での生徒作品展示（木の手づくり展）に加え、国内主要都市圏や全国各地において、生徒や卒業生の作品展示、ないしはPRを行うことにより、高等学校の魅力を広く発信します。あわせて、国内外で活躍する卒業生や大学生、若者が集うワークショップなどを開催することにより、さまざまな人々がより深く、高等学校や村とのつながりを持つことにより、高等学校を活用した関係人口の創出を目指します。

また、高等学校をはじめ、音威子府村の特色である美術工芸や蕎麦、鉄道などの地域資源を複合的に活かし、国内外からさまざまな形で応援して下さる個人、民間企業、大学、自治体などの皆さんとの、つながりの機会（音威子府村応援団）を設けることにより、相互に連携し合うことにより、交流の拡大や関係人口の創出を目指します。

◎施策の目標

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (2019年度)	目標値 (2024年度)
作品展の開催数	旭川・札幌・地元 3回（各地域年1回）	旭川・札幌・地元 3回（各地域で年1回）
音威子府村応援団への 加入数	0人	5年間で100人or団体
交流イベント開催数	0回	5年間で延べ3回

<主な事業>

- ・主要都市圏や小規模自治体等での木の手づくり展事業
- ・小さな村g7サミット事業を通じた交流促進
- ・音威子府村応援団の結成および各地域での交流連携企画の推進
- ・多様な大学生や若者が集うワークショップの開催（交流イベント）

③ 学校間連携の強化

これまで継続してきた、東海大学との共同によるデザインスクール実施をはじめ、道内や全国各地の大学、大学院などとの連携を図り、高等学校の魅力化を進めます。

◎施策の目標

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (2019年度)	目標値 (2024年度)
大学との連携事業数	年3回	年4回

<主な事業>

- ・高大連携事業（東海大学との連携事業の実施）
- ・おといねっぴ美術工芸高等学校振興事業
- ・【再掲】多様な大学生や若者が集うワークショップの開催（交流イベント）

[期待される施策の主な効果]

- ◇多様な生活空間の提供による卒業生を中心とした若者等の定住・Uターン
- ◇おといねっぴ美術工芸高等学校のPRによる音威子府村の地域ブランドの向上
- ◇おといねっぴ美術工芸高等学校を中心とした関係人口の拡大
- ◇音威子府村の魅力向上に伴う本村への新しい人の流れの創出

4. 高校生参加による個性的で魅力あるまちづくり

☆高校生参加まちづくり事業 年2事業（2019年度）→年3事業（2024年度）



[現状と課題]

同校は、芸術の村である本村の顔であり、木工芸や絵画等の美術に特化した独自の学びを求めて、道内外から集まる生徒の存在や、彼らの作品は、村民の大きな自慢となっています。一方で、作品展示の現状は、校内ロビーでの常設のほかは、音威子府村公民館や木の手づくり展での特別展のみであり、このような作品や生徒の創作能力をまちづくりの中に、さまざまな形で活用できる余地が見られます。また、村民と生徒との交流の場や機会も限定的であることから、新たな交流の場や機会づくりも望まれます。

[具体的な施策]

① 高校生や卒業生のまちづくりへの参加促進

おといねっふ美術工芸高等学校の生徒と村民との交流の場や機会をつくるために、現在も行われている全村民参加の村民運動会や、公民館での作品展示をはじめとし、村内で行われるさまざまなまちづくりプロジェクトとの連携、生徒の参加を図り、交流を促進します。

また、高校生が「デザイン」を通じて、地元企業との連携による木工芸品の開発や、ふるさと納税返礼品への活用など、卒業後の起業やアーティストとしての独立へのきっかけ、地元商工業の新規開拓へとつながるような試みを展開することにより、これまでになかった魅力あるまちづくりを目指します。それとあわせて、国内外で活躍する卒業生とのつながりの場づくりを進め、作品の展示や販売機会の検討など、相互に協力できる機会を創出します。

◎施策の目標

重要業績評価指標 (KPI)	現状値 (2015-2019年度)	目標値 (2024年度)
村内公共施設での作品 展示会開催数	年1回	5年間で5回

<主な事業>

- ・公共施設を活用した作品展示公開事業
- ・高校生等がデザインした作品の商品化事業
- ・卒業生等の作品紹介および販売事業

[期待される施策の主な効果]

◇デザインを通じた高等学校および音威子府村の魅力向上

◇生徒および卒業生と地元企業との連携による、地域内循環経済の活性化

◇新たな特産品造成による、ふるさと納税の魅力化

第2期 音威子府村
まち・ひと・しごと創生総合戦略
令和2年3月

編集・発行：音威子府村役場 総務課
〒098-2501 北海道中川郡音威子府村字音威子府 444 番地 1
TEL：01656-5-3311 FAX：01656-5-3837